



「江の島丸」コラム

稚魚との出会い

先日、相模湾の海洋観測において水深 150m から海面までのプランクトンを採集する調査を行いました。この調査ではプランクトンネットという口径 45cm、335 μ m（マイクロメートル）、長さ 180cm のものを毎秒 1m の速度で鉛直曳きをするのですが、珍しく小さな魚が入っていました。船員には何の稚魚か分からなかったのですが、画像を栽培推進部の研究員に送ったところ、「ハチビキの仲間かもしれない。」との回答が返ってきました。

「仲間って分かっただけなの？」という疑問を持った人もいるのではないのでしょうか。自分も同じようなことを思った経験があります。しかし、稚魚の判別はとても難しく、魚の分類学を専攻されていた方たちでも難しいそうです。今回の稚魚は研究員がしっかりと判別をしてくれたことに感心をしました。



プランクトンネットに入った稚魚

海洋調査は広大な海の調査を積み重ねが大切さを示すことが多いのですが、こういう小さい出会いがあることも本当に楽しい仕事であると思っています。

その後の話

先日、SNS でハチビキのことを調べてみると、とあるテレビ番組で 2020 年 12 月に特集がされていたらしいです。そちらの記事では、本来沖合のやや深い場所で暮らす魚ですが、黒潮の蛇行と風の影響があったのではないかと書かれていました。